

だれでも幸せになれる教えです!!

# ひかり

2023年

2月

210号

春をよむ



- ◇ 真の仏弟子とは
- ◇ 法を實踐すれば法に守られる
- ◇ 言った通りになる人生

宗教法人 真生会

# 利他の心を育もう

『思いやりのある家庭と社会を作ろう！』

## 真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

### ◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

### ◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

### ◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

# 厄除け節祭

2月5日(日)

於、総本山真生寺



魔除けの切り火



お浄めの鈴払い

## 今年の運勢解説



## 於、大阪教会



熱心に解説を聞く厄除けご祈祷者

## 新年祝寿祈願大法要 左義長の儀 (1/22)



左義長お焚き上げ



今年の信仰目標のご真教法話



塩と神酒でお浄めの儀



読経供養の祈りを捧げる信徒



大阪婦人部ご詠歌奉納



谷口大阪教会長法話



# 開祖さまのみ教え

開祖 たなか 田中 ひで 偉仁 ひと

業によって生じた病気は、近代医学や新薬では絶対完治できない（不治の病）。業（我欲）で蓄積した財産は、裁判や理屈では解決できず、憎しみや怨みが残る。業で獲得した地位や権力は、必ず地に落ち、子孫は崩壊の道をたどる。

さて、業とは何か！日常において、よく怒り、よく愚痴を言い、自分心の勝手気ままの貪りをする事、これを三毒のという。凡夫はこの三毒の生活を気付かず積み重ねているのである。

業の消滅方法は、慈悲・誠・堪忍の三徳の徳積み生活に大転換する以外にない。不平不満を喜びに変えれば、不治の病も必ず治る。人のために施し強くなれば、財産争いも必ず円満解決できる。人を立て己を下げれば、全て困ることはなく安泰なる生活が出来る。

（1998年、真実に生きるひかり105号より）

# ぶし眞教法話

会長 田中庸仁  
たなか つねひと



## ◇眞の仏弟子とは

お釈迦さまはご在世中にこんな事をおっしゃいました。

「私と共に食事をし、寝起きを共にして修行する者があっても、その者の心の中に、常に妬みねたと不足と怒りがあれば、それは私から遠く離れた弟子である。たとえ、私と千里離れたの遠くにいても、よく私の教えを守る者は、最も身近な親しき

弟子である。」

この釈尊の教えを深く理解しますと、仏様の教えは実行し守るべきものであって、ただひたすら聞くだけではいけないのです。

昨年しんねんの二月、約三十年ぶりに突然遠方の〇〇さんから電話がありました。

「先生、大変長い間ご無沙汰いたしておりますが、このたび兄弟が立て続けに亡くなりました。二人とも独り身ひとでしたので、これからのご供養は私がさせてもらおうと思いますが、真生会でお戒名を付けて頂けませんか！」というお電話でした。

諸般の事情で長らく法縁が途切れていた方ですが、開祖さまとの古いご縁の方ですので、よく頼って来て下さったと思い「よろしいですよ。真生会でお戒名をお付けしますよ」

こんな事情から、ご法縁が復活したのです。

先日、一月末に三回忌の法要をお願いしたいとの連絡を頂き、お伺いしますと、かつてこのお宅のご法座にお参りしておられた懐かしい方もお見えになり、「先生、お久しぶりです。お会い出来て本当に嬉しいです。私の今日の幸せは〇〇さんが、事あるたびに先代会長先生（開祖さま）から学ばれた法華経の教えをもとに色々と教えて下さり、支えて下さったお陰です」と心から喜ばれて申されるのです。

招いて下さった当家の奥さんは八十三歳、この法友の奥さんは八十歳ですが、

三十年前と少しも変わらぬ若々しきで、とても明るい相貌そうぼうなのです。何故か！それは教えに素直で、考え方が前向きで、出来事にくよくよせず、心に執われがないからなのです。

「遠く離れていても、教えを信じ実行する者は真の仏弟子である」との積尊のお言葉通り、仏様と開祖さまを信じ教えを実行してみえる方は、事情で長く法縁は遠ざかって見えましたが、心に信仰を保ち、妙法を信じて実践しておられたからこそ、年より若く見えお幸せなのだと感じました。

#### ◇法を實踐すれば法に守られる

続いてこう申されるのです。

「教えを聞いた最初に、開祖さまから真生会の教えは、

①子供の良くなる教えです。

②そのためには、主人を立てて大切にすること。

③子供を怒って育てないこと。誉めて育てること。

と教えて頂き、今日までこの三つを守って一生懸命努力して来ました。

主人は十三年前七十二歳で亡くなりましたが、一生懸命主人を立てて大切にしてきました。今は独り暮らしですが寂しいこともなく、お陰様で健康で二人の親孝行息子に恵まれて本当に幸せです。心から感謝しています。

長男は、某信用金庫に入社早々支店長に抜擢され、その後ビックバンクの某都市銀行にヘッドハンティングされ重役まで行きましたが、定年退職前に傘下の幼稚園全体で園児千四百人、保育士六百人を有するその地域一番の幼稚園の事務長に招かれ活躍しています。遠方にいますが、親思いのいい息子です。

次男は某有名食品会社のブラジル本社の社長として活躍していますが、年に二回ほど帰国し、そのたびに『親孝行させてもらうんだ』と一流ホテルを手配し、全国各地に旅行に連れて行ってくれるのです。

本当に教えに間違いはありません。

難しい主人で、面と向かって誉めてくれたことはありませんでしたが、子供の良くなることを信じて、主人を大切にし、子供は怒らず、誉めて誉めて育てた結果、二人とも立派に出世し、親孝行をしてくれるのです」と喜んで報告して下さいました。

## ◇言った通りになる人生

さらにこうおっしゃるのです。

「あと五年、八十五歳になったら、息子が戻って来るので、八十五歳までは心配かけないように元気で居られるよう何とか頑張ろうと思います」とおっしゃるので、このように助言しました。

「奥さん、世の中は真剣に言った通り思った通りになるのが人生です。八十五歳までは元気で頑張るという気持ちはわかりますが、あまり意味のない年令を切ってはいけません。八十五歳までは元気で頑張るぞ、そして息子が帰ってきたら、ますます元気で楽しい老後を暮らすぞ…」と思い、言葉に出すということです。きつとそのようになります」と申し上げました。

「会長先生、解りました。そのように切り替えて頑張ります」

幸せになる人は、やはりどこまでも素直なのです。

人は何か大きな願いがありますと、つい年数を区切ったりしますが、子供のためなら自分はどうなってもいいとか、私はどうなってもいいから、〇〇の病気が治りますように…と願掛けする方があります。心情はよくわかりますが、

正しい「願の掛け方」とは違うのです。

◇人を建てれば健康になる

健康の「健」という字は、人偏に建てると書きますが、長年の法友であるお二人はお互いに「今日の幸せのあるのは、あなたのお陰です」と感謝し称え合っ  
て見えるのです。そして、当家の奥さんは、車いす生活でリハビリ中のご主人  
を建てて真心こめてお世話され、法友の奥さんは最後まで主人を建て続けられ  
たところに明るく健康の秘訣があるのでしょうか。

◇仏恩、師恩、親恩に守られる

最後に、当家の奥さんが「先生、長らく離れておりましたが、先代会長先生  
と奥様の御恩は忘れておりません。毎月ご命日の日には、感謝の読経供養をさ  
せて頂いております。」と仏壇の過去帳を見せて下さいました。

仏を念ずる人は仏恩に守られ、師を念ずる人は師の徳に守られ、親を念ずる  
人は親の思いに守られて生きることが出来るのです。

## 釈尊物語

29

### ◆ブツダの最後の言葉◆

二月十五日は「涅槃会」ねはんえ 釈尊ご入滅の日です。クシナガラ郊外の沙羅さらかの木の下に横たわり最期を迎えられました。釈尊の入滅を前にして、弟子たちの動揺は大きく、その時、アーナンダ（阿難）たちに釈尊は次のように語られました。

「アーナンダよ、おまえたちは次のように思うかもしれない。『教えを説かれた師は去ってしまったわね、われわれの師はおられない』と。しかし、それをそのように見なしてはいけない。

アーナンダよ、わたしが説いた教え、

制定した戒律、それらがわたしの死後、おまえたちの師である。」

そして、釈尊との別れを悲しむアーナンダに、「やめよ、アーナンダよ。悲しむな、嘆くな。私は常々説いて来たではないか。『すべての愛しいもの、好ましいものと分れ、離れ、異なるに至る』と。およそ生じ、存在し、作られたものは、破壊はかいされるべきものであるのに、それが破壊しないように、ということが、どうしてあり得ようか。

アーナンダよ。長い間、お前は、向上し来れる人（仏陀）に仕えてくれた。

アーナンダよ、お前は善いことをしてくれた。努め励んで修行せよ。速やかに汚けがれのないものとなるだろう。」

また、心配して病床に集まった弟子たちに、「比丘たちよ、汝らの中に、教法や僧伽（教団）の在り方や実践方法について疑問が残っているものは、いま質問するがよい。後になってあの時私は師の前にいたのに問うことが出来なかつたと悔いることがあつてはならない。」

だが、弟子たちはみな黙っていた。偉大なる師の死を前に問うことのできるものは誰もいなかった。仏陀は二たび三たび促したが、弟子たちは依然として沈黙していた。

仏陀はさらに「汝らは、私を崇めるがゆえに問わないかもしれないが、それではいけない。友人が友人に尋ねるような気持ちで質問するがよい。」

そういわれても、やはり、みんな黙っていた。その時、侍者のアーナンダが言った。「世尊よ、まことに稀有のことでありますが、今や一人の比丘も、教法や僧伽、あるいは実践方法について、少しも疑問を残しているものはないと信ぜられます。」

仏陀は静かにうなづかれ、「では、比丘たちよ、わたしから言おう。比丘たちよ、今こそおまえたちに告げよう。

諸行は滅びゆく。放逸なることなく努めよ。この世のことは全て壊法である。怠ることなくして精進するがよい。これが、わたしの最後の言葉である。」  
そして、しずかに目を閉じられ、永遠の寂靜、涅槃に入られたのです。

# 今月の運勢（3月）

（2023年3月6日～4月4日）

## 一 白水星

大きな問題にぶつかり足踏み状態で心が折れそうになる。一旦立ち止まって再出発を目指そう。派手な動きを慎めば活路が見出せる。進む時は徳人の意見を聞いて進めば安心。

## 二 黒土星

太陽の下にあつて明るく情熱もある時だが、周りの輝かしい活躍に一人取り残された感がある。心ならずも日当たりの悪い場所で重苦しいが、智慧を内に秘め、他人の言葉に耳を傾けて正道を歩もう。

## 三 碧木星

運氣の谷間だが、雷鳴

がとどろき雨を呼び、塞がっていた冬の気が解け始め、果実草木が殻を破って芽を吹いてきた。さしあたって問題がなければ安静にし、問題があれば一気に片づけること。

## 四 緑木星

運氣はまだ低く、何かを始めるにはまだ早い。自分自身の行動を見つめ直し、コツコツと基礎固めをする時。身を正し周囲から尊敬し認められる行動に徹しよう。

## 五 黄土星

高運期に入り新しいことを始めて行くチャンス。朝日が昇るように

慌てずゆっくり進めていこう。早起きと明るく元気な声掛けがより運氣を高める。勢いに乗って余分な一言に注意すること。

## 六 白金星

運氣は最高潮。色々な出会いがあるので、活動範囲を広げて飛び回ろう。突然の出会いや望まない出会いもあるが、良い刺激と受け止めれば最後は必ず良い出会いとなる。

## 七 赤金星

年末から忙しく活躍してきた七赤はこの辺で少し休養しよう。心身ともにリフレッシュし、エネルギーを蓄え、

今日までの活動を完成させるために計画を熟慮点検しよう。

## 八 白土星

これまでの努力を完成させる時。目上の応援をもらいながら、スピード感をもって取り組むこと。大きな成果が得られるので、積極的に大きなことを成し遂げよう。

## 九 紫火星

収穫の時だが、思わぬトラブルで当てが外れる。表に出せないことや衝突が多い。収穫を分かち合い、みんなと仲良くすることを心掛けよう。尊敬できる人に従えば吉となる。

## しあわせ眼鏡

お金は幸せのすべてではない。  
お金は幸せになる為の単なる道具、一つの道具である。  
お金は、その使い方によって幸せも生み、不幸も生みだす。  
自分も喜べ人にも喜んでもらえる生きたお金の使い方こそしよ。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- |          |           |  |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地<br>TEL 058 - 235 - 7304       |
| 【岐阜教会】   | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19<br>TEL 058 - 262 - 9615      |
| 【大阪教会】   | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10<br>TEL 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】  | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10<br>TEL 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。